

島根県立出雲農林高

島根県立出雲農林高校（出雲市）は、2020年1月開催予定の第3回全国農業高校和牛枝肉共励会（和牛甲子園）に向けて、出場牛の飼養管理に入った。同校は今年1月の第1回大会で、肉質部門優良賞を受賞した。次は親牛の段階から代々の生徒が手入れしてきた愛情の詰まった優良牛で、最高位を狙う。

2年後の最高位狙う 和牛甲子園へはや照準



2年後の最高位を目指して「久々福」に愛情を注ぐ出雲農林高の生徒

優良牛の肥育開始

2年後に照準を合わせ、人が肥育に当たる。観早々と決めた出場牛は「久々福」。11年から県機関や畜産関係団体などと連携し「しまね和牛」の種雄牛候補牛などを生産するプロジェクトを展

開中の同校で、17年9月に受精卵移植実習の過程で生まれた。父は県基幹種雄牛で現

父は「久茂福」

場後代検定の脂肪交雑歴代最高を記録した「久茂福」。母も優良血統牛で、当初は種雄牛として育てる予定だったが、遺伝的欠損が判明し断念していた。大会出場は、能力の高さと開催時の月齢が28カ月と合ったことが決め手になったという。動物科学科の2年生5

牛に育てたい」と意欲を見せる。指導する三島大和教諭は「今の3年生が1年生の時から関わってきた牛。先輩から後輩へと良い流れで引き継がれている」といい、肉質評価に飼育の体験発表を加えた総合評価でトップの座を視野に入れる。

チーム員の吉田華恵さん(16)は「牛の健康状態を見てしっかり飼う。しまね和牛として誇れる